

## ハンディキャップ委員会活動へのご協力のお礼とお願い

2016年9月吉日

障がいを持つ方々のスキーをはじめとするウィンタースポーツを支援してゆく目的のために発足したハンディキャップ（以下HC）委員会は17年目を迎えます。昨年度は数多くのボランティアの方々をはじめ関係組織の方々のご協力をいただき、①HCセミナーⅠ（横浜）、②HCセミナーⅡ（五竜）、③障がいをもつ人のためのスキー教室（1月五竜）④同スキー教室（3月車山）[③④のスキー教室はスポーツ振興くじ（toto）助成事業]⑤鹿沢チャレンジカップスキー大会（4月）の5つの行事開催をすることが出来ました。支援活動をより良くするために開催した10月のHCセミナーⅠでは、参加者22名が「知的障がい・肢体障がいを持つ方へのサポート」のための基本的な障がいの理解とバ이스キー・アウトリガー等を用いて疑似体験を通し必要なサポートと用具の理解・使用法を学び（講師：プレジャーサポート協会・日本チェアスキー協会）、1月のHCセミナーⅡでは参加者18名が実際に雪上でバ이스キー、チェアスキー、アウトリガー・テザー（ロープ）等を着用して使用法や、サポート・指導法を学びました。

1月の五竜スキー教室では総勢40名（参加者12名、ボランティア講師他28名）、3月の車山スキー教室では総勢111名（参加者42名、介助等12名、ボランティア講師他57名）の参加があり、両行事ともセミナー参加者も加わって無事終わることが出来ました。4月のチャレンジカップには2日間（GS、SL）延べ24人の参加と7名のサポートがあり無事終了することが出来ました。皆さまのご協力にあらためて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

HC委員会では、スキーをはじめとするウィンタースポーツをより楽しみたいと望んでいる障がいを持つ方々と共に、更に充実した活動をしてゆきたいと思っております。これまでの実践で得られた貴重な経験を踏まえ、今年度も疑似体験を通して、委員はもちろんボランティアの方々、障がいについて理解を深めよりよい支援活動ができる様に、HCセミナーⅠ（座学：障がい者のサポートについて&聴覚障がい・視覚障がいサポート）、Ⅱ（雪上での聴覚障がい・視覚障がいサポート指導実践）を開催いたします。1月の五竜スキー教室の前日にセミナーⅡを実施します。また3月の車山スキー教室では、参加者の方々が参加しやすいように往復バスを利用し、ボランティア登録をいただいている皆様のご協力のもと、宿泊地やバス行程での生活サポートも含めた取り組みを行ってゆきます。4月のチャレンジカップスキー大会のサポートも力を注いでゆきたいと考えております。これらの事業を実施するにあたっては、参加者の実費負担を原則とはいたしますが、セミナーや行事運営、委員会諸活動、ボランティアへの謝礼その他に多くの資金が必要となっております。今年度（28年度）もスポーツ振興くじ（toto）助成金の交付申請が認められましたので、充実した内容で運営が出来るものと考えております。

今年度もHCセミナーへのご参加、ボランティア登録及びスキー教室のボランティア参加もあわせてよろしくお願い申し上げます。なお指導員・準指導員・認定指導員の方々のスキー教室へのボランティアのご協力は、研修会・クリニック参加として認められますので、多くの方のご参加をお願いいたします。

（公財）神奈川県スキー連盟  
ハンディキャップ委員会